

☆ 口腔内崩壊錠の標記いろいろ

口腔内崩壊錠（OD 錠：Oral Disintegrant）とは、口腔内で速やかに溶解又は崩壊させて服用できる錠剤のことです。通常の錠剤は、口の中で溶けず、基本的には飲み込むことで薬の効果が発揮されますが、OD 錠は、唾液程度の少量の水で溶けるように開発されており、水なしでも口に入れるとすぐに溶けるようになっています。

日本では 1997 年に「ガスターOD 錠」が OD 錠として最初に発売され、現在は一般用医薬品にも活用されています。薬の名前についている“OD”や“D”といったアルファベット等が口腔内崩壊錠を意味しており、いくつかの略語が区別され、用いられています。

口腔内崩壊錠に用いられる略語例

OD	<u>O</u> rally <u>D</u> isintegrating Tablets <u>O</u> rally <u>D</u> isintegration	口腔内で崩壊する
D	<u>D</u> isintegrating	崩壊する
RM	<u>R</u> apidly <u>M</u> elt in Mouth Rapimelt	口腔内で溶解する
RPD	<u>R</u> apid <u>D</u> issolution	速やかに溶解する
ES	<u>E</u> asy to <u>S</u> wallow Tablet	容易に飲み込める

◆ OD 錠のメリット

- 唾液や少量の水で速やかに溶けるので、小児や高齢者、嚥下困難な患者でも飲みやすい。
- 薬を屯服で服用する場合、その場で飲むことができる。
- 腎疾患などで水分摂取制限がある場合、吐き気等を催して水を一緒に飲むとつらい場合に、無理なく服用できる。
- 経管栄養チューブが入っている患者の場合、薬を短時間で溶かすことができる。

◆ OD 錠のデメリット

- 崩壊しやすいという半面、錠剤が壊れやすく、吸湿しやすい。
- 一包化ができない場合がある。
- 味がよくない。薬がのどに残る感じがする。

また、その他に注意点として、OD 錠は、唾液や少量の水により遅くとも 30 秒程度で崩壊しますが、口腔粘膜からの吸収により効果発現を期待する製剤ではないため、崩壊後は「唾液又は水で飲み込むこと」と添付文書に記載されています。また、食道、胃などの消化器官に炎症が起きたり、薬の吸収が遅れたりする場合があるため、「本剤は寝たままの状態では、水なしで服用させないこと。」とも記載されており、単に“水なしでも飲める”ことを強調するのみでは、本来のメリットを十分に活かしきれないことにも注意が必要です。また、OD 錠が速やかに溶ける特性から即効性があると誤解されることがありますが、従来の錠剤と OD 錠は、治療効果と作用発現時間は変わらないものとなっています。